

初めての心カテ(心臓カテーテル)検査を受けました

原 宏實

12月20日朝6時半過ぎの犬の散歩の途中で、急にみぞおちの辺りからこみげる様な違和感を感じると共に急激な脱力感で地べたに崩れ込んでしまった。意識はしっかり覚醒していた。

柴犬を飼い始めておよそ10年、犬の散歩を兼ねて朝早く2キロ、夕方1.5キロを歩いていた。

長目のリードに繋がれた犬が戻って来て私の様子を観ていた。

道路の端に寄って10分ほど休んでいると、みぞおち周辺の違和感や脱力感も無く、脚の踏ん張りも大丈夫で、意識もしっかりしていたので、残りの約800mを普通に歩いて帰宅した。

若干の疲れを感じたが普通に朝食を済ませて、いつもの生活パターンの生活に移った。

12月21日は雨模3様の天気で散歩は中止。

12月22日、いつもの様に6時半前に犬と一緒に家を出て200m位歩いた所で、またみぞうちの違和感と急激な脱力感に見舞われ、「あつまた来た」と思い近くのガードレールに身体を預けた。やはり意識はしっかりしていた。

20日午後、15回あきつ会首都圏会員の方から届いた、20日朝急逝した田村さんのことが頭に浮かんだ。田村さんは同じ高綱中学校から1960年4月入学した同窓生であった。

前回と同じように10分ほど休んでいると脱力感が消えたので、ガードレールに両手を置き、ストレッチで四肢の踏ん張りを確認して犬に用をさせて帰宅した。

午睡を済ませた後に、近くに住む娘からLINEがあり、「田村さんことがあるから、必ず主治医の所へ行って診てもらうように」と強く伝えてきました。

自宅から4キロほど離れた糖尿病の主治医のM内科医院へ自分で車を運転して行き、診察受けた。心電図検査の後、先生の問診があり、20日と22日朝の状況を伝えた。

「症状が良くないので、紹介状を書きますからすぐに相澤病院の救急外来に行って診察を受ける様に」と指示が有った。

自宅に戻り、娘の運転で相澤病院の救急外来に行き、心電図、X線、超音波検査等を受けて、循環器科のS先生から症状についての説明を受

けた。

「心臓の動きが悪く、半分ほどしか働いていません。心不全です。このままですと心筋梗塞か狭心症になる可能性があるので、直ぐに手続きをして入院してください」

娘に準備をしてもらい、ICU病棟に入院した。夜10時半を過ぎていた。

点滴2種、心電図モニター、血圧測定等々の管やリード線が身体に繋がれ、ベッドの上であまり動けない状態が続き、しっかり眠ることが出来なかつた。

24日に心臓カテーテル検査を行うことになり、検査作業の工程説明を受け、検査同意書のサインを行ったりしましたが、しっかり眠ることが出来ないまま24日午後1時を迎えた。

車椅子でカテーテル検査室へ向かいドアを開けると、20人位のスタッフが待機しており、促されて検査台のベッドに載りました。

右腕と右手首を梗塞され、手首に局部麻酔をして、カテーテルの先端が挿入されて行きました。先生と何人かのスタッフが作業をしている気配は感じましたが、詳細は観ることが出来なかつた。

「はいお疲れさまでした。終わりましたよ。」と言われ梗塞を外されベッドから降りて車椅子で部屋に戻った。約45分間。

暫くして私と妻と娘の3人で、カテーテル検査画像を見ながら検査結果の説明を聞いた。

「心筋梗塞や、狭心症の症状は見られませんでした。心臓に水がたくさん溜まつていて活動が弱くなっていました。心包水腫と思われ、薬とリハビリで治療して行きましょう。早期発見、早期治療がでけて良かったですね。要因は今回の場合、加齢、遺伝性も含めた体质、持病の糖尿病、酒などの生活習慣が考えられる。」とのことでした。

リハビリと投薬の治療を続けました。数種の経過観察の結果、大きな問題が少なくなり、投薬の継続を指示され、年内の12月30日に退院できました。

田村さんありがとう。

あなたのことが無ければ、暫く何も対応・対処しないまま放っておき、早期検診を受けないで、最悪の事態を招いたかと思います。

謹んで田村さんのご冥福をお祈りいたします。